

第101回（4月12日）

- ・ 今期の検討課題に関する各委員からの発表等

第102回（6月19日）

- ・ 今期の検討課題に関する有識者ヒアリング（澤野由紀子委員、萩原なつ子委員）

第103回（7月30日）

- ・ 子供・若者の学びに関する有識者ヒアリング（今村久美委員、島根県益田市大畑伸幸氏、穂田南海氏）

第104回（9月9日）

- ・ 社会的包摂に向けた学びに関する有識者ヒアリング（認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ高橋清樹氏、一般社団法人kuriya海老原周子氏）

第105回（10月15日）

- ・ 地域課題の解決に取り組む民間団体や人材の活躍・連携に関する有識者ヒアリング（宮城潤委員、ハバタク株式会社丑田俊輔氏）

※ その後も月1回を目途に開催。議論の状況を踏まえ、必要に応じ適宜ヒアリングを実施するとともに、議論をまとめていく。

審議の視点例（第104回）

困難を抱える家庭や子供たちへの支援、外国人の家族や子供たち、障害のある子供たちなどへの支援、社会的に孤立しがちな若者や高齢者への支援といった社会的包摂に関する課題について

（1）社会的包摂に向けた生涯学習・社会教育の在り方・姿はどうあるべきか。

（審議の視点例）

- ・社会的包摂に向けた学びの姿は具体的にどのような形であるべきか。
- ・生涯学習・社会教育の果たすべき役割や強みは何か。

（2）上記を実現するために、どのような課題があり、どのような方策が考えられるか。

特に、NPOや社会教育団体などの民間団体や人材の活躍・連携をどのように促進していくことが考えられるか。また、関係機関や行政の果たす役割や取組はどのようなことが考えられるか。

（審議の視点例）

- ◆社会的包摂に向けた学びに関する課題について
 - ・福祉、労働、医療分野との連携
 - ・学びに関し支援が必要な人を支援の場にスムーズにつなげること
 - ・社会的包摂に対する人々の理解促進
- ◆民間団体の活躍・連携について
 - ・民間団体が持続的・発展的に取り組む上でどのような課題があるか。また、取組を後押しするためにどのような方策が考えられるか。
- ◆人材の活躍・連携について
 - ・取組の中核を担う人材を育成する上でどのような課題があり、どのような方策が考えられるか。
 - ・取組に対する多くの人々の主体的な参加を得る上でどのような課題があり、どのような方策が考えられるか。
- ◆関係機関や行政の取組について
 - ・企業、大学、専門学校等がどのように取組に参画することが考えられるか。また、参画する上での課題は何か。
 - ・生涯学習・社会教育行政の果たすべき役割は何か。また、取り組む上での課題は何か。